

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530220

研究課題名(和文) ケインズ-ベヴァリッジ体制の起源と現代性：半自治組織による効率と公平

研究課題名(英文) The origin and modernity of the Keynes-Beveridge regime: efficiency and fairness by way of semi-autonomous bodies

研究代表者

小峯 敦 (Komine, Atsushi)

龍谷大学・経済学部・教授

研究者番号：00262387

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の成果は、ケンブリッジ大学中央図書館およびLSE文書館などにおいて、ケインズおよびベヴァリッジの原典(手紙・メモ・草稿を含む一次資料)を精査することを通じ、次の認識に至ったことである。すなわち、戦間期の巨大な知としての両人は、効率と公平を両立させる構想を推進しており、特にケインズにおけるその内実は、次のような複合的な組織を実現することであった。つまり、公共心を持った大規模経営者、真性な長期期待に基づく投資家、公平無私な政策担当者、専門的知を持った経済助言官、適切な経済情報を流す公共メディアという複合体である。

この複合体こそ、彼らの言葉に即した「投資の社会化」の実態である。

研究成果の概要(英文)：The most important result of this study is as follows: based on primary documents (letters, memos, and drafts) in such archives of Cambridge University Library and LSE Archive Section, we conclude that (i) Beveridge and Keynes attempted to promote some system to balance fairness and efficiency, and that (ii) Keynes envisioned a complex organization that consists of eminent managers with their public mind, investors with long-term expectations, disinterested policy-makers, economic advisers with expertise, and the mass media which circulates true economic and social information. This complex organization is the very phenomenon of Keynes' 'SOCIALISATION OF INVESTMENT'.

研究分野：経済学史・経済思想史

キーワード：ケインズ ベヴァリッジ 公平 効率性 半自治組織

1. 研究開始当初の背景

この研究の成果は一次資料の収集いかにかかっている。

ケンブリッジ大学中央図書館・手稿室にある常任評議会や経済学部の議事録(基本は書記による自筆、時にタイプ文書の添付あり)である。この議事録は大学におけるケインズ等の活動や思想を探る第一級の未公開資料だが、現在までほとんど注目されていない。

さらに2010年代は閲覧のみ許可されてきたが、2011年度から一部デジタル撮影が可能という大幅な変更が行われた。2011年8月の渡英時にかろうじて一部分をデジタル撮影したが、まだ大量に未撮影の資料が残っている状態であった。

2. 研究の目的

本研究の究極的な目的は、ケインズやベヴァリッジの経済思想を思量しながら、「公共目的と経済的効率性を両立させる体制(半自治組織)の条件」を考究することにある。

「福祉国家の合意」「資本主義の黄金時代」という思想はどこから始まり、いつ終わり、そして現代にも意味があるのだろうか。これが申請者の根源的な問題意識である。

本研究は申請者によるベヴァリッジ研究を核に据えた上でその殻を破り、個人的自由の侵犯、経済的な非効率性、共同体の不在、一国主義などの「ケインズ~ベヴァリッジ体制」に対する根強い不信や批判に対して、真摯に回答し、その思想の現代的意義を抽出することを目標とする。この過程で、彼らが目指した「新しい(介入的な)自由主義」New Liberalism(個人的自由を守り、かつ高めながら、なお国家の経済的役割を積極的に認める立場)の内実も明らかになるだろう。

3. 研究の方法

平成24年度のできるだけ早いうちに、上記図書館にある一次資料の撮影および解析を済ませる必要があった。

次に、女性の学位問題(1920/21年のケンブリッジ大学で女性を正式な構成員にするかどうかの論争)を探究するため、女子カレッジであったガートンおよびニューナムの文書館の資料を収集する。さらに、ロンドンの女性図書館The Women's Libraryを訪れ、ベヴァリッジの審議会仲間であったメアリー・ストックスや、家族手当を論じたラスボーンの文書を閲覧する。

研究協力者として、特に海外の学者を挙げ

ておく。申請者が長期滞在したケンブリッジ大学クレア・ホールにて、Cambridge Seminar in the History of Economic Analysisが定期的に開かれていたが、その組織者であるGeffrey Harcourt名誉教授と、Roberto Scazzieri氏(University of Bologna)と知己を得た。従来からの知り合いであるEugino Biagini氏(シドニー・サセックス・カレッジ)と共に、ケンブリッジ大学の足がかりである。また2011年9月にオックスフォード大学で開かれたHET UKにおいて、組織者のJames Forder氏(ベイリオル・カレッジ)と知り合い、ベヴァリッジが卒業した「理想主義の殿堂」の文書館の内される約束を取り付けた。

このように、平成24年度は海外において、資料収集することに力点を置く。

4. 研究成果

本研究によって、次のような主に3つの成果を生み出すことができた。

第1に、最大の成果として、次の英語単著をイギリスの出版社から公刊できたことである。Atsushi KOMINE, *Keynes and his Contemporaries: Tradition and Enterprise in the Cambridge School of Economics*, Abingdon, Oxon, UK: Routledge, May 2014, pp.190.

本書はケインズ研究、経済学史研究に大きな影響を与え、次のような内外の雑誌で書評も受けた(4つの英語レビュー、1つの日本語レビュー)。History of Political Economy, Journal of Economic Thought and Policy, Review of Keynesian Economics, History of Economic Thought, 『歴史と経済』。

本書は申請者の現時点での集大成と言うべき研究書となり、ケンブリッジ学派という知の集積地において、ケインズがどのような伝統と革新を持って「ケインズ革命」を成し遂げたかについて、その1930年代初頭までの前史を浮かび上がらせている。

特にケインズにおける「半自治組織」とは、次のような複合的な組織を実現することであった。つまり、公共心を持った大規模経営者、真性な長期期待に基づく投資家、公平無私な政策担当者、専門的知を持った経済助言官、適切な経済情報を流す公共メディアという複合体である。この複合体こそ、彼らの言葉に即した「投資の社会化」の実態である。

第2に、ライオネル・ロビンズ『(初版)経済学の本質と意義』(京都大学出版局、2016)を翻訳し終え、公刊させたことである。本書は、「経済学の稀少性定義」を流布させ

た重要な書物だが、この論争には、経済学はどのようにあるべきか、というケインズやベヴァリッジが関わった知的な運動があり、本研究の副産物として、成果にあげることができる。

本書の「訳者解説」は「巻末の訳者解説が本書の経済学の歴史における意義、著者の経歴や貢献、そしてロビンズ経済学の日本への受容史など極めて参考になる資料が付加されていて、この部分だけでも独立して読む価値がある」(田中秀臣・上武大学教授)とも評された。

第3に、『ケンブリッジ叢書 第2巻 ケンブリッジ学派とは何か』(ミネルヴァ書房、2016年公刊予定)の中で、「ケインズ革命とは何か～マーシャルからケインズへ」という章を担当したことである。この論題を正面から取りあげる論考として、従来の研究史に一石を投じる集大成の作品となっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件) 代表的のみ

Atsushi Komine, Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics, International Journal of Social Economics, 2017, forthcoming, 査読あり

Atsushi Komine, Diversity in Studies on Keynes, History of Economic Thought, 58(1), forthcoming, 査読あり

小峯敦, 「ロビンズ経済思想の日本導入 一般均衡理論と経済体制論に対する反応様式」, 経済学論集, 55(1/2), 1-35, 2016, 査読あり

仲北浦淳基・小峯敦、ロバートソンのケインズへの書評、経済学論集、55(1/2)、2016、49-66(翻訳および研究ノート) 査読なし

小峯敦、『ベヴァリッジ報告』(1942)と『雇用政策』白書(1944)、経済学論集、53(1/2): 37-97, 2014、査読あり

[学会発表](計10件)

Atsushi Komine, LSE's Federalism during the Wars, International Seminar, 2016.3.7, Salento University, Italy (イタリア)

Atsushi Komine, The LSE's Federalism during the Wars: Robbins's and Beveridge's Liberalisms, The 4th

Eshet-Jshet Joint Conference, 2015.9.11, Otaru College of Commerce (北海道小樽市)

小峯敦、「ケインズとベヴァリッジ～福祉国家の理念誕生」ケインズ学会関西支部(於・大阪府立大学 I-site なんば、大阪市浪速区) 2014.12.14、招待講演

Atsushi Komine, Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics, ESHET conference, 2014.5.31, University of Lausanne, Switzerland (スイス)

小峯敦、「ケンブリッジ学派とケインズ マーシャル以後の自己規定」, 経済学史学会 2014年度78回大会(於・立教大学、東京都豊島区) 2014.5.24

Atsushi Komine, "Beveridge and his pursuit of an ideal economics: why did he accept Keynes's ideas?" International Conference 'Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison', 19 March 2014 (Waseda University, Japan), (東京都新宿区)

小峯敦、「1910年前後における経済学トライポスの改訂 マーシャルの設計とケインズ等の実施」, ケインズ学会 第3回年次大会(於・専修大学、東京都千代田区) 2013.12.7

Atsushi Komine, "Why did Keynes promote Grace I in 1921? A Cambridge University Officer's Attitude towards Conferring Degrees on Women" HES 2013 Annual Conference (History of Economics Society), 21 June 2013, the University of British Columbia, Vancouver, Canada (カナダ)

下平裕之・小峯敦、「経済学史研究におけるテキストマイニング分析の導入 ケインズ『一般理論』と書評の関係」, 経済学史学会 2013年度77回大会(於・関西大学、大阪府吹田市) 2013.5.25

Atsushi Komine, "Crises in the Economics Tripos in the 1910s: Keynes's 'Transformation' between Moral Science and Modern Economics" The third Joint ESHET-JSHET Conference, (University of Corsica, Corte, France), 14 September 2012 (フランス)

[図書](計4件)

小峯敦、「ケインズ革命とは何か～マーシ

「ケインズからケインズへ」、『ケンブリッジ叢書
第2巻 ケンブリッジ学派とは何か』(ミネ
ルヴァ書房)所収。公刊予定。

小峯敦・大槻忠史 訳『経済学の本質と意
義』(ライオネル・ロビンズ)京都大学学術
出版会、2016.1、218頁

Atsushi KOMINE, Keynes and his
Contemporaries, 2014, Routledge, 190pp

小峯 敦・西沢保編、『創生期の厚生経済学
と福祉国家』、ミネルヴァ書房、2013、372(共
編著)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.econ.ryukoku.ac.jp/~komine/hope/research.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

小峯 敦 (KOMINE, Atsushi)

龍谷大学・経済学部・教授

研究者番号：00262387

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし